電気技術史研究活動の沿革と現状

電気技術史研究活動の現状調査専門委員会編

目　次

1.　まえがき …… 3
2.　国内の電気技術史研究活動の沿革 …… 3
2.1　国内の電気技術史研究活動の概要 …… 3
2.2　主要史書紹介 …… 6
2.2.1　史書全般 …… 6
2.2.2　雑　誌 …… 11
2.2.3　通信・放送 …… 13
2.2.4　電　力 …… 15
2.2.5　電気機械 …… 16
2.2.6　電子・情報 …… 16
2.2.7　電気鉄道 …… 17
2.3　最近の団体・グループの活動状況 …… 18
3.　国内の学協会における技術史研究活動の沿革と現状 …… 19
3.1　電気学会の取り組み …… 19
3.2　主要学会の取り組み …… 20
4.　国内外の電気技術史記念物を所蔵する博物館 …… 24
4.1　国内の電気に関係する博物館の沿革 …… 24
4.2　電気技術史展示をもつ博物館の現状 …… 25
4.3　博物館データ …… 26
4.4　世界の科学技術博物館における電気技術展示 …… 31
4.4.1　総合科学技術史博物館 …… 31
4.4.2　サイエンスセンター …… 33
4.4.3　キャビネット系の純粋科学博物館 …… 33
4.4.4　電気専門の個別博物館ほか …… 34
5.　諸外国における電気技術史研究活動の沿革と現状 …… 37
5.1　各国の電気学会等を中心とした活動 …… 37
5.1.1　沿革の概要 …… 37
5.1.2　現在の状況 …… 39
5.2　通史を中心とした欧米の電気史書 …… 45
6.　あとがき …… 47
付録1　電気学会雑誌掲載関連記事 …… 48
付録2　電気技術関連雑誌発刊年表 …… 54

Sample : DO NOT PRINT

電気技術史研究活動の現状調査専門委員会委員

〔委員長〕田中　国昭(千葉大学)
〔幹　事〕原口　芳徳(東京電力)
　　八代健一郎(千葉大学)
〔幹事補佐〕前島　正裕(国立科学博物館)
〔委　員〕石井　彰三(東京工業大学)
　　石川真佐男(日立京浜工業専門学院)
　　井上　昭(SMK)
　　伊与田　功(三菱電機)
　　大来　雄二(東芝)
　　桂井　誠(東京大学)
　　杵村　和洋(日本電信電話)
　　小助川充生(日本電気計器検定所)
　　小林　輝雄(JR東日本)
　　是永　定美(電子技術総合研究所)
　　志村　幸雄(工業調査会)
　　鈴木　昭男(電源開発)
　　高橋　雄造(東京農工大学)
〔委　員〕谷合　正志(NHK放送技術研究所)
　　中川　徹(横浜商科大学)
　　林田　精二(ソニー)
　　松本　栄寿(横河電機)
　　松本　吉弘(京都大学)
　　山田　昭彦(東京都立大学)
　　渡辺　和也(東京電力)
〔途中退任委員〕荒川　文生(電源開発)
　　楠井　昭二(日本電気計器検定所)
　　三村　尚志(日本電信電話)
〔主な協力者〕留井　英明(三菱電機)
　　西巻　正郎(東京工業大学名誉教授)
　　松山喜八郎(高柳記念財団)
　　東　中正(東芝科学館)
　　為国　孝敏(土木学会)
　　亀山　哲也(物質工学工業技術研究所)

Sample : DO NOT PRINT

電気技術史研究活動の沿革と現状

1. まえがき

電気学会創立100年を契機に電気技術史技術委員会（大越孝敬委員長）が発足した。真の技術先進国として国際的に貢献することが求められているわが国が，今後とるべき進路を考えるうえで，電気技術者自らがその存在を確認し，新しい時代に即した発展をはかるために，電気技術史を調査研究することは有益である。この認識のもとに，技術委員会は，まずその出発点を確認することを目的にして本調査専門委員会を設置した。

設置趣意書には「国内外における電気技術史調査研究活動の沿革と現状を調査し，電気技術史研究が今後においてもつ意味を検討する」ことを目的に，

(1) 電気技術史調査研究のわが国における沿革
(2) 国内における電気技術史調査研究活動の現状
(3) 国内の関連他学協会における技術史調査研究の沿革と現状
(4) 上記各項に相当する外国の例

について調査することとした。

本委員会は，この趣旨に沿って，まず，電気技術者自らが行った電気技術史にかかわる調査研究活動と，これにより残された資料を中心に調査を進め，これと並行して関連する内外の学協会の個別技術史の調査研究活動を調べることとした。

本来，歴史的資料を整理することは，それを意識するしないは別にして，厳密にいえばなんらかの歴史的な位置づけや評価が行われることである。今回の調査では，この点については，電気技術者の活動を中心とした電気技術史関係の古典的な資料という指針に沿ってまとめることとした。具体的には，個別資料の内容，時代的背景などを委員が手分けして調査し，それを持ち寄って委員会で審議しまとめることとした。

委員会メンバーは，もとより，電気技術者の集団であり，技術史を専攻しているものではない。そこで，本委員会での審議，各地の博物館，資料館への現地調査を通して，委員会メンバー自身の技術史にかかわる知識の向上をはかりつつ，専門的な歴史研究の正確さで資料を検討して学術的な知見を集約することよりも，可能なかぎり多くの技術史研究活動および各資料を網羅することを心掛けた。

個別の資料を紹介する記述については部分的な異論もありえるが，本報告書を批判的視点でもみていただき，これらの資料を残された電気技術者達の労作が，歴史学という体系・手法に基づいたより普遍的な人類の価値にまで結晶することは，本委員会の望外の喜びとするところである。

なお，今回の調査では，電気技術史研究にとってしばしば有力な資料となる主要な社史，学校史，個人史や，さらには，経済史家や技術史家などによる多くの個人的な著作を個別に扱うことはせず，ここで紹介した調査活動組織や資料を調査いただければ，それらの多くに到達できるよう配慮した。エレクトロニクスを中心とする新しい電子技術諸分野の歴史は，今回の報告の対象から除外した。

報告書の表記については，人名や地名などの固有名詞はそれぞれの原典により表記し，報告書全体にわたる統一はとらなかった。また，人名に対する敬称は，すべて省くこととした。

2. 国内の電気技術史研究活動の沿革

2.1 国内の電気技術史研究活動の概要

わが国においてすでに電気学は江戸期に始まっていた。しかし，電気技術が本格的に移入されたのは明治維新後である。電気技術の歴史をひもとくようになったのも，明治維新後であった。電気技術者以外の人々は（ごく近年は別として）電気技術史にあまり関心をもたなかったが，今日まで電気技術者および電気工業関係者らによって電気技術史が記録され研究されてきた。本章では，こ

Sample : DO NOT PRINT